琉球大学学術リポジトリ

化石種と現生種に関する知見の総合にもとづく古地理学的仮説の構築の試み：宮古諸島を例に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 太田, 英利, 高橋, 亮雄, Ota, Hidetoshi, Takahashi, Akio メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/830

PS-36　化石種と現生種に関する知見の総合にもとづく古地理学的仮説の構築の試み: 宮古諸島を例に

太田 英利 ・ 高橋 亮雄

琉球大学熱帯生物圏研究センター　西原研究室

琉球列島のように複数の地殻プレートの境界近くに位置する島嶼群は、プレート間の相互作用に起因する地殻変動の影響で、しばしばその形状や大陸との位置関係を大きく変化させると思われる。しかしそうした変化のこれまでの過程を具体的に推定するのはきわめて困難である。そうしたなか、洋上を分散する能力に乏しい非飛翔性の陸生動物は、その過去や現在の分布、さらには遺伝的変異の地理的パタンなどといった形で、関連する情報を多く蓄えている場合がある。実際、陸生動物を対象とした研究にもとづく地史の推定はこれまでにも多くの島嶼域で試みられている。しかしこのようにして構築された古地理仮説が異なるアプローチによる研究の結果と対比され検証されることは、こうした作業がより確からしい仮説の創出に向けきわめて有効であると期待されるにもかかわらず、少なくとも琉球列島に関してはこれまでほとんど実践されていない。今回われわれはこの問題を念頭に、宮古諸島の古地理に関する総合的な仮説の構築を試みた。宮古諸島は八重山諸島の北東側に位置する南琉球の一島嶼群で、おおむね琉球石灰岩に覆われた平坦な島々によって構成されている。これらの琉球石灰岩がせいぜいここ数十万年以内（中・後期更新世）に海中で形成されたと考えられること、現在ハブ類が分布しないことを説明する都合からもこの島嶼群が比較的最近水没したと想定されていること、地表水や植生が琉球の他の島嶼群に比べて著しく貧弱でそのため動物にとっての生息環境の多様性に乏しいこと、などから宮古諸島に見られる動物への研究者の関心は一般に低く、その歴史生物地理学的位置づけや現在見られる動物相の特性について詳しい検討が加えられることはこれまでほとんどなかった。そこでわれわれは COE プロジェクトの一環として自身で発掘したものを含め、これまでに宮古島から得られた脊椎動物化石の分類学的位置づけやその全体的な多様性について検討し、結果を現生種の多様性、固有性、系統的地位などに関する知見と総合することで、現在流布している仮説の検証と必要に応じた改変を試みた。一連の作業の結果、前期更新世頃には今の宮古諸島の東側から沖縄諸島の手前にかけて大型の島嶼が存在したことが強く示唆された。